

鳥取県議会総務教育常任委員会県外調査団来校

5月29日(火)午後1時から3時まで、鳥取県議会総務教育常任委員会の委員9名(他随員2人)の皆様が本校をご視察されました。

ご視察の目的は「県立高校における水産教育および部活動の振興について」と「学校施設見学」で、本校からは、久保田孝之教頭、山城昭一教頭、金城亨事務長、塩崎征孝教諭(実習船運営部)、髙原将哉教諭(海洋技術科・ボクシング部)、奥田賢司(進路指導部・海洋生物系列)、國吉宙紀教諭(情報通信系列)、酒井利昌教諭(食品化学系列)、平良祐喜教諭(マリンスポーツ系列・カヌー部)、眞榮平康広(教務部・野球部)、そして私を入れて11名で本校教育活動について説明を行い、質疑をお受けいたしました。

ご質問の内容、詳細については割愛させていただきますが、主に「本校の入試志願倍率の高さの理由分析」「部活動による学校の活性化のヒント」「学寮の活用」についてでありました。

我が国全高校生数に占める水産系高等学校の生徒数はわずか0.3%にすぎません。学校は各県に大体1校という状況です。また、少子化などの影響から、ほとんどの学校が生徒募集に対して長年非常な努力を重ねてきているのも現状です。

その中で、本校の水産に関する学科(海洋技術科)の志願率の高さと、総合学科における生徒数充足について、全水産系高等学校の中から特異!!な存在として我が沖水が当該県議団のお目に止まったものと思われ、校長として光栄至極の境地でありました。

しかし、本校に至ってもこれまで学校の存続について順風満帆であったことはないわけで、今日があるのは、本校、特に水産系教育の存続に血のにじむような努力を重ねてこられた幾多の関係各位を始め、教職員の方々のおかげであることは言うまでもありません。

今回、学科・系列および部活動の説明をした上記の先生方は過去の困難を知り、現在を語り、未来の夢や希望を語ってくれました。その気持ちに共通することは、離島県である沖縄県のさらなる発展と、次世代の産業を担う人材育成への熱い思いに他なりません。事実、本校が全国水産系高等学校から注目される理由については、過去の卒業生進路実績が雄弁に語っているところです。

空梅雨で猛暑高湿度の中、会議室を後にして「専攻科操船シミュレーター」「食品加工場」「海洋生物系列栽培実験室」「機関実習棟」「黒潮寮」の順で施設見学をご案内させていただきました。どの施設も本校の「目玉」であり、沖水の歴史を支えてきた大切な施設です。委員の方々も流れる汗を拭きながら熱心に質問をされておりました。

2時間の日程で、少しばかり窮屈なご案内になりましたが、最後は委員の方々から、対応についての感謝と本校職員の未来を見据えた学校活性化への取り組みには鳥取県の参考となるとして感謝・激励の言葉を頂戴いたしました。ご視察に際して少しでもお手伝いできたことに安堵するとともに、さらなる本校教育の充実と発展を誓わずにはおれませんでした。

